



「computer × art」をキーワードに、
新しい時代のメディア芸術の制作に取り組んでいます。

略歴

武蔵野美術大学、IAMAS、Le Fresnoy卒業。
武蔵野美術大学パリ賞受賞によりCite
Internationale des arts滞在芸術家。また
UNESCO-Aschberg Bursaries for Artistsの
助成を受け、Civitella Ranieri Centerフェ
ロー。2010年本学着任、2016年より現職。

所属学会など

映像情報メディア学会

研究紹介

ヴィジュアルプログラミング、インタラクション

芸術がその時代々々の最新技術の影響を多く受けてきたことはよく知られています。ラスコーの洞窟壁画の時代では、顔料そのものが最新技術であったでしょうし、抽象画は、写真技術の確立によって写実的に対象を描くことの虚しさに当時の画家が気づいたから発達したのです。これらの事例はみな、技術の発達がものの見方を変えさせた例でしょう。

今日の情報工学のキーワードのひとつに「インタラクション」があります。本研究室では、この「双方向性」という意味をもつ「インタラクション」をテーマに、マウスやキーボードに頼らないフィジカル・コンピューティングによるデザインや芸術分野の可能性を探っています。また、情報工学の進歩によって時代とともに変化する芸術の可能性と魅力について考察します。「建築とダンス」あるいは「時間と彫刻」といった異なる分野をつなぎあわせられるコンピュータというメディアが、現代の芸術表現に与えている影響を、実制作を通して考えます。



『La ville qui fait signes』展での展示風景（2004年、フランス）

主な作品発表

- 1) 『Jardines desde otra perspectiva 2024』
(Cuernavaca, Mexico)
- 2) 『The Other Art Fair Dallas 2023』 (Dallas, USA)
- 3) 『The Other Art Fair LA 2023』 (LA, USA)
- 4) 『The Other Art Fair Sydney 2023』
(Sydney, Australia)
- 5) 『中之条ビエンナーレ2021』 (群馬県中之条町)
- 6) 『UNKNOWN ASIA EXTRA 2019』 (大阪府北区)
- 7) 『Superfine! Art Fair DC 2019』
(Washington D.C., USA)

Artist in residence

- 1) 『Sala752』
(2023年、ジェシュフ/ポーランド)
- 2) 『Buiho Creative Hub』
(2018年、メセジャナ/ボルトガル)
- 3) 『Archipelalgo Art Residency in Korpo』
(2017年、コルポ/フィンランド)
- 4) 『Civitella Ranieri Center』
(2003年、ウンベルティデ/イタリア)
- 5) 『Cite Internationale des Arts』
(2000-01, 08年、パリ/フランス)